

校長室だより

共学共高

第
41
号

令和5年4月22日発行

発行責任者

白梅学園高等学校長

武内 彰

部活動～自分の居場所をみつけて 共に高め合おう

新入生を迎えて、放課後の学校もより活性化している。今は、部活動の仮入部期間となっており、どの部にも新入生の姿が見られる。第2大体育館に修学旅行説明会の会場となっている都合で、バドミントン部の練習がなくなった日の放課後、校内を回ってみた。

吹奏楽部は、音楽室や各教室にパートごとに分かれての練習だ。カウンターで自習している生徒も楽器の音がバックミュージックとなっているようで、気にする素振りも見せない。うまく共存しているように見える。

軽音楽部は、いつもより大人数で活動しているなど思い、顧問のN先生に聞いてみると、新入生のためのミニライブをやっているという。演奏を見つめる新入生も手拍子をして反応が良い。軽音楽部も部員数が多く、弥生祭や新入生歓迎会ではオーディションを実施して、出演するバンドを絞っているようだ。



多目的ホールでは、華道部が活動している。顧問のI先生に話を聞くと、仮入部で10名以上来てくれることはなかなかない、とのことだ。外部指導員のM先生たちの指導の下、作品を完成させていた。なかなか趣があるなという印象だ。ここだけの話だが、外部指導員のM先生とは私の初任校で一緒にさせていただいた間柄である。ここ白梅学園で数十年ぶりに再会したことにご縁を感じている。



テニスコートでは、ソフトテニス部が活動している。上級生たちが新入生らに球出しをして、フォア、バック、ボレーで打ち返す練習をしている。バックが上手な生徒がいて驚く。私が「ウエスタングリップでバックが上手に打てるのが理解できない」とつぶやくと、生徒と一緒に活動している I 先生が微笑んだ。バドミントンのグリップはイースタングリップで、ウエスタングリップにすると、バックが打ちづらくなるのだ。



中庭の多目的ホール前では、硬式テニス部の上級生たちが、新入生 4 名ほどと一緒に素振りをしている。声をかけながら、フォア側のストロークで振っている。練習後に、「新入生が来てくれてよかったね」と声をかけると、嬉しそうにしていた。

グラウンドでは、陸上部が活動している。一見ダンスと思われるようなステップワークを新入生と共に行っている。単に走るだけではないトレーニングメニューがあることを知った。私が「新入生は 1 人なの？」と声をかけると、「いえ、4 人来ています」と返してくれた。私が安堵して「それはよかった」と返答すると、上級生たちは微笑んでいた。

外のハンドボールコートでは、ハンドボール部が活動している。筋力トレーニングの一種なのだろうか、2 人 1 組で上半身の強化をしているように見える。顧問の S 先生と E 先生

もその場に寄り添っている。時折、生徒たちからは笑い声も漏れる。ボールを扱った練習の時とは異なる姿も垣間見られる。先月の全国選抜大会で優勝したメンバーたちである。次の目標に向かって（おそらくインターハイだと思う）、歩みを進めているところだ。



昨年度の部活動加入率は、2年生で86%、1年生で90%を超えていた。もしかしたら、今年はそれ以上の数字になるかもしれないという予感がする。

もちろん、私は入学式の式辞の中でもそのことを勧めている。「教科の学習以外の何か一つ、挑戦するものを見出し、自分の居場所を見つけて、共に高め合ってほしい」と願っている。高校時代にしか流せない汗や涙がある。そして、大人になると徐々に失われてしまう感性がある。今は、学力と共に人間性も高めていく大切な時期である。彼女たちの挑戦しようという思いに寄り添って、背中を押していく存在でありたい。

（共学共高とは：本校のディプロマポリシー（育てたい生徒像）の一つで、「共に学び、共に高め合う」生徒の姿を表す）